

令和2年 年頭所感

一般社団法人 北海道水産会
代表理事会長 川崎 一好

新年あけましておめでとうございます。令和最初の元旦を迎えるにあたり、皆様に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

また、旧年中は、本会の事業推進にあたり、格別なるご支援とご協力を賜り衷心よりお礼申し上げます。

昨年は、令和という新しい年を迎える中、本道水産業はオホーツク海のホタテ貝の生産回復、道東のマイワシの豊漁、8年に亘り全道的に取り組んできたホッケ資源管理の成果がようやく見え始めるなど、将来に向けて希望の持てる出来事もいくつかありました。一方、歴史的な不漁に直面したサンマ・イカをはじめとし、秋鮭、昆布など主要魚種が軒並水揚げ不振となり、漁業・水産加工業のみならず、関連業界にとって大変な試練の一年でありました。不振の原因が地球温暖化の影響によるものなのかどうか、研究機関を含め徹底的に調査し、対応について議論して行かなければなりません、数十年に一度の岐路に立たされているといっても過言ではないという状況にあります。

そうした中、一昨年成立しました改正漁業法が本年施行されます。法を具体的に運用していくための政省令を踏まえ、資源管理システムをはじめとした新たな制度が浜の意向を反映し、現場で円滑に運用されるよう国に強く働きかけをして参ります。

また、ロシア情勢につきましては、年々厳しさを増している中、北方四島周辺水域における安全操業、貝殻島昆布漁業等、ロシアとの関係漁業交渉を関係機関・団体とこれまで以上に連携を取りながら進めて参ります。さらに、北方四島における日ロ共同経済活動については、北方四島の隣接地域は勿論のこと、本道の漁業振興に資することを前提に、関係機関と充分協議しながら取り組んで行きたいと考えております。

このように、水産業界を取り巻く情勢はめまぐるしく動き、またかつてないほど厳しさを増していますが、英知を結集し、勇気をもってこの難局を乗り切って行こうではありませんか。北海道水産会は、今年も本道水産業の発展のために国や道・水産団体はもとより、漁協や市町村の皆様方と一体となって最大限の努力をして参りますので、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、全道の浜が、自然災害に強く、また海難事故が限りなくゼロとなり、豊漁に恵まれた夢と希望に満ちた年になります様心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

